

丸子宿

東海道二峠六宿



丸子宿を映像で紹介しています！

梅若葉
丸子の宿のどろろ汁
<https://youtu.be/KwICy9go2Q>



古代東海道 丸子宿
<https://youtu.be/nxj8w94PTu0>



東海道
府中宿西見付～丸子宿
<https://youtu.be/iyB05c55-j8>



二峠六宿道旅推進実行委員会

 平成 30 年度文化芸術振興補助金

弥次

「……もし、亭主

とろろ汁は

ありやすか……」

(東海道中膝栗毛 丸子宿)



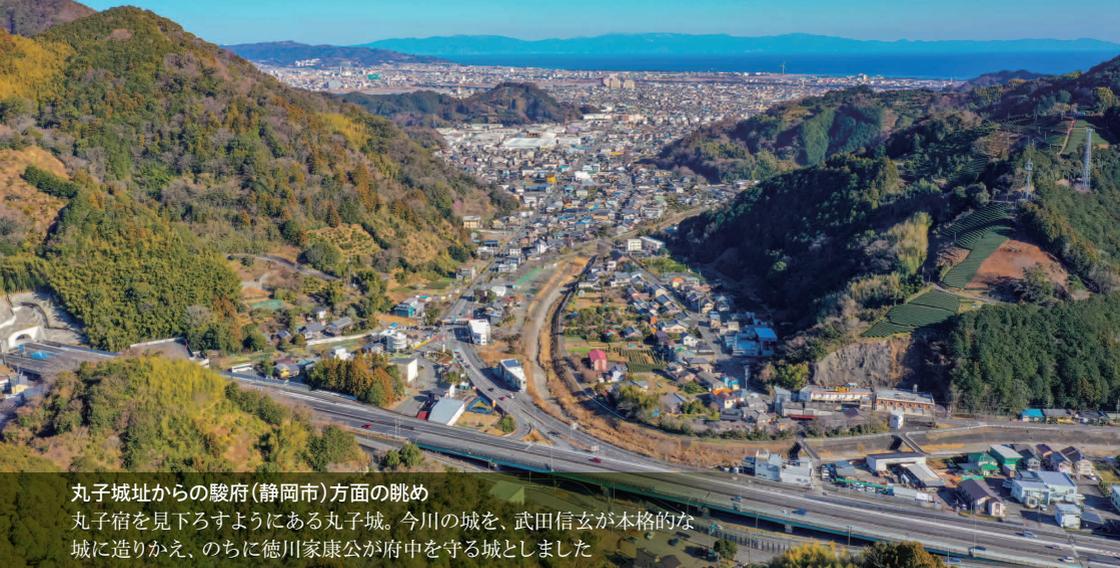
茶屋には「名物とろろ汁」とあり、おいしそうに食べる旅人、長い棒を背負って自然薯を売りに来た人が描かれています

元禄4年(1691)、松尾芭蕉は「梅 若菜 丸子の宿のとろろ汁」と詠みました。東海道の20番目、小さな山あいの宿場である丸子宿では、良質な自然薯がとれたことから「とろろ汁」を滋養強壯の食事として旅人に提供してきました。享和2年(1802)に発行された十辺舎一九の東海道中膝栗毛や天保4年(1832)の歌川広重の東海道五十三次の浮世絵などにも描かれ、そして今でも、とろろ汁は丸子宿の名物となっています。

東海道丸子

の見どころ

西に宇津ノ谷峠、東に安倍川の間にある丸子宿。天満宮の梅伝説、能の演目にもなった悲恋物語など、古代から街道が通り、多くに人が行き来した場所だけに物語の多いところです。



丸子城址からの駿府（静岡市）方面の眺め
丸子宿を見下ろすようにある丸子城。今川の城を、武田信玄が本格的な城に造りかえ、のちに徳川家康公が府中を守る城としました



朝鮮岩から夕焼けの市街地と富士山



吐月峰柴屋寺
室町時代の今川氏に仕えていた連歌師宗長。宗長が余生をおくった禅寺です



泉ヶ谷
沢沿いに寺や民家が連なる風情ある雰囲気があります。古代東海道であった歎昌院坂に続きます



起樹天満宮（おきぎてんまんぐう）
道をふさいだ起樹天満宮の紅梅が、一夜にして、起き上がり、源頼朝公を通した伝説があります



小將井神社
平安末期の武将平重衡と手越の長者の娘千手姫との悲恋物語は能の演目になっています



歎昌院
山を背にひっそりと佇むお寺で、山門前には五百羅漢の像が並んでいます



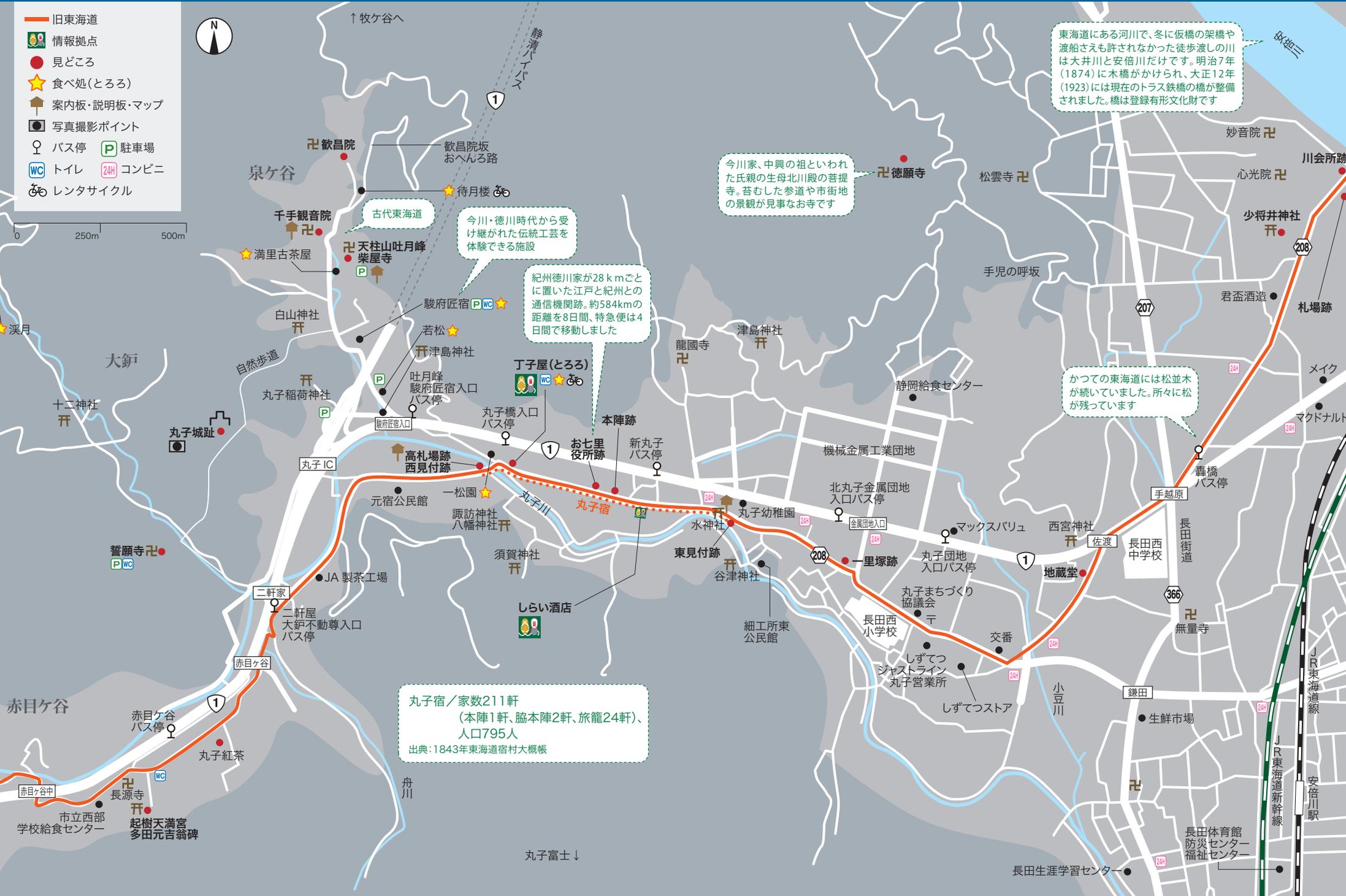
誓願寺
徳川家康公に謀反の意思ありといわれた豊臣家の疑いを晴らすため奔走した片桐且元の墓があります



日本の紅茶発祥の地
徳川慶喜公の幕臣多田元吉は、インドアッサム地方より持ち帰った原木で、日本で初めて紅茶栽培を成功させました

丸子宿 山間の小さな宿場

- 旧東海道
-  情報拠点
- 見どころ
- ★ 食べ処(とろろ)
-  案内板・説明板・マップ
-  写真撮影ポイント
-  バス停  駐車場
-  トイレ  コンビニ
-  レンタサイクル



東海道にある河川で、冬に仮橋の架橋や渡船さえも許されなかった徒歩渡しの川は大井川と安倍川だけです。明治7年(1874)に木橋がかけられ、大正12年(1923)には現在のトラス鉄橋の橋が整備されました。橋は登録有形文化財です

今川家、中興の祖といわれた氏親の生母北川殿の菩提寺。苔むした参道や市街地の景観が見事なお寺です

今川・徳川時代から受け継がれた伝統工芸を体験できる施設

紀州徳川家が28kmごとに置いた江戸と紀州との通信機関跡。約584kmの距離を8日間、特急便は4日間で移動しました

かつての東海道には松並木が続いていました。所々に松が残っています

丸子宿 / 家数211軒
(本陣1軒、脇本陣2軒、旅籠24軒)、
人口795人
出典: 1843年東海道宿村大概帳

赤目ヶ谷
赤目ヶ谷バス停
丸子紅茶
長源寺
起樹天満宮
多田元吉翁碑
市立西部学校給食センター

長田生涯学習センター

丸子富士 ↓